

〔曲名〕 Carnevale in Quaresima

四旬節の謝肉祭

〔曲種〕 Racconto Caratteristico-umoristico Musicale

叙情的戯曲

〔作曲者〕 Giuseppe Fillippa

ジュゼッペ フィリッパ

〔編曲〕 中野二郎

Jiro Nakano

四旬節とはキリスト教に於いて復活祭の前日までの40日間をいい、シナイ山に於けるモーゼの断食、特にキリストの広野での断食を記念する重要な聖節である。

信者はこのため自己の罪を痛悔し、齋食する。

本曲は作者が陽気な遊び好きの男たちに贈った叙事的な戯作曲で謝肉祭の馬鹿騒ぎの写景である。

作者が附した叙景意図は

○仮面舞踏会

謝肉祭の最後の夜は踊りと喧騒と笑いで人々は生活の退屈を凡て忘れる。神経質な行動、焦燥、浮わつた情熱、凡てを馬鹿げた喜びに向ける。

○教会にて

宗教的な神秘的な歌、遙かなるオーデ、四旬節は平静と静寂に帰す。生活は最初の静けさを取戻し、ここでは夢中になった跡方もない。

○陽気な

しかし陽気な男たちは日々の生活の雰囲気の中にもたえず地獄の大騒ぎの中に生きていたいと思っている。

○悲哀

祈りをこめた暗く悲しいメロディは四旬節の終わりを告げる。

○快樂

生気を失って疲労した仮面舞踏会は、それでも尚喜びを残し、カップを鳴らしたり、超人的な努力をして滑稽にも唇に微笑を洩らす。

○酔っ払いの歌

すっかり酔った人々は甘い神酒の杯を尚も離さず、茫然として空にあけ蹣跚（まんさん）と千鳥足で歩く。

そして美人へのセレナータを即興的に試してみるが、しかし感覚を失った言葉は支離滅裂で彼等の口から出るものは混乱した喉鳴りだけである。

歌の響きはやけの叫び声。

○酒宴

騒ぎを聞きつけて仮面の人達が入って来てあたりは地獄の円舞を踊る人達で一杯になる。

助けを呼ぶ声、逃げ迷う者、地に倒れた叫び声。ひざまづいて祈る人。然し聞こえない。火だ!!!

○夜・番

警報に驚きあわて、皆は夫々の家に一生懸命逃げる。消防士がかけつけて危険の注意をし、急いで消火する。

この中にはかつての酔払い達もいる。

○乾杯の合唱

人々は安堵し静けさが返る。僅かに残った酔払い達は乾杯のをして謝肉祭の挨拶を交わす。